

調味料への支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

皆さんは料理を作るとき、どこに重点をおかれているのでしょうか。新鮮な素材を使うこと、手軽に作れることなどいろいろとあるのではないのでしょうか。今回は、どんな料理を作るときにも必要ですが、あまり目立たない調味料に焦点を当てて、家計調査の結果をみていきましょう。

注 ここでは、マヨネーズ・ドレッシング、みそ、砂糖、しょう油、酢、ソース、ケチャップ、食塩を合計したものを「調味料」としています。

年齢階級が上がるにつれて増加する支出金額

調味料の年間支出金額を世帯主の年齢階級別に見ると、1世帯当たりの支出金額は年齢階級が上がるにつれて増加し、60～69歳で最も高くなっています。また、1人当たりの支出金額についてみると70歳以上で最も高くなっています（図1）。

調味料で異なる購入頻度

次に、調味料の100世帯当たりの購入頻度をみてみましょう。頻繁に購入する印象がない調味料ですが、調査結果では、マヨネーズ・ドレッシングなどの購入頻度が高くなっています。一方、食塩やケチャップなどの購入頻度は低くなっています（図2）。

注 購入頻度とは、各品目が家計簿に記入された回数を表したものです。回数が100を超えていると1年間に1回以上は家計簿に書かれていることになります。

健康ブームに左右されることがある調味料

最後に、調味料の年間支出金額をみると、平成6年に食塩が増加しています。この年に、塩を使用してマッサージをすることがブームになった影響などもあり増加したと考えられます。また、平成16年は酢の支出金額が増加していますが、これは酢の健康ブームの影響などもあり増加したと考えられます（図3）。

図1 世帯主の年齢階級別世帯人員及び調味料の年間支出金額(平成22年)

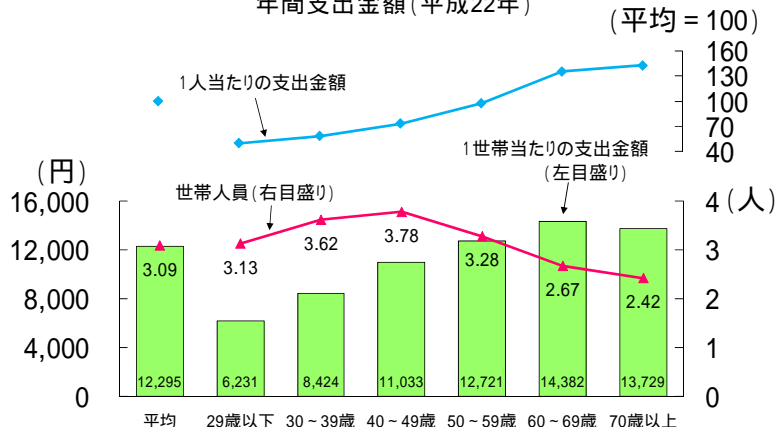


図2 調味料の100世帯当たりの年間購入頻度(平成22年)

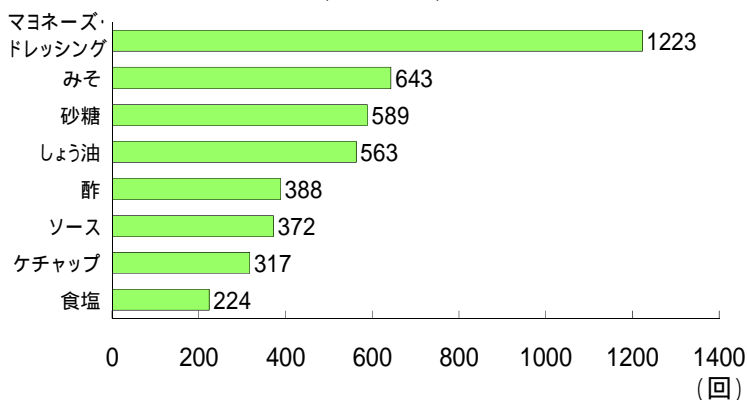


図3 調味料の年間支出金額の推移(平成元年 = 100)

